

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

格差を無くそう

郡山市立郡山第二中学校 3年 星 朋花

我が家には新潟からお米が届く。夏には鹿児島からうなぎが届く。冬には高知から文旦が届く。親戚も知り合いもないのに。全国からやってくる食べ物に舌鼓を打っている。これらはふるさと納税の返礼品だという。ふるさと納税という言葉は聞いたことがあったものの、返礼品だけに注目しており、それがどのような制度なのかは気にしたこともなかった。

私はこの作文を書くにあたりふるさと納税という制度について調べてみた。ふるさと納税は、好きな自治体を選んで寄付できる制度で、税収が過疎などによって減少している地域と都市部との経済格差を改善するために作られたのだそうだ。納税者は寄付をすることで、その分の金額が税金から控除されるうえに、寄付額に見合った返礼品をもらうことができる。寄付してもらう自治体は税収向上につながるとともに、返礼品を工夫することで自治体のPRも可能になる。つまり、相互に利益が見込めるのだ。この制度のおかげで人口が少ない市区町村でも、予算を集めることが可能となっている。また、納税者は寄付をする際に、寄付金の使い道を指定することも可能で、希望に添ったよりよいまちづくりにもつながるのだ。

私は父の転勤で何度か転校をし、引っ越しも経験した。さまざまな場所で生活をしてみると、場所によって公共サービスの充実度合に差があると感じた。

例えば、学校に通う私たちにとって身近な教育の差だ。私が感

じた違いは大きく分けて二つある。

その一つが設備の違いだ。具体的には校舎や設備の老朽化、I C Tの活用など、地方は都市と比べて設備が古かったり、導入が進んでいないと感じた。また、体育館へのエアコンの設置や屋内プールなど、設備の充実度にも差があった。

もう一つは学習機会の頻度の違いだ。地方は都市と比べて、校外学習の頻度が低いように感じた。このような違いがあると、学べることや得られるもの、経験にも差が出てしまうのではないかと考えた。

私は、これらの差は税収の差からくるのではないかと考えた。都市には多くの人に住んでいるため、住民税や消費税などの税収が多い。また、企業や商業施設も集中しており、法人税、事業税、固定資産税などの税収も多くなる。しかし、地方ではこれらの税収が都市よりも少ないため、できることに格差が生まれてしまうのだ。

このような問題の解決にふるさと納税が役立つのだ。平等な生活を送るためにも、税収による格差は無くしていく必要があると考える。そのためにできることが私たちにもあることを知った。地域の格差を無くすための一助となることを願って、各地域が工夫を凝らした返礼品を美味しくいただいている。